



しただの



## 《湧き水近くの植物図鑑》

 <p><b>カタクリ</b> 花期・3~4月。雪解けを待って、薄紫色の可憐な花を咲かせる。日が出ると開き、閉じると 閉じる。(棚田周辺)</p>	 <p><b>白いカタクリ</b> 花期・3~4月。花びらに色素が形成されない白花変種。自生るのは数万本に一本とい われる。(棚田周辺)</p>	 <p><b>コバイモ</b> 花期・3~4月。早春植物。淡褐色の斑点を散 りばめた釣り鐘形の小さな花を下向きに咲 かせる。(机山登山道)</p>	 <p><b>ヤブツバキ</b> 花期・10~4月。花は平開しないおわん型。 中心のおしべの上半分がくついた筒状。そ の形でユキツバキと見分ける。(吉ヶ平)</p>
 <p><b>ミズナ</b> 花期・4~5月。水辺に自生する。和名はウワ バミソウ。緑白色の小さな花。その場の水の 味がする山菜。(吉ヶ平)</p>	 <p><b>ツリフネソウ</b> 花期・7~9月。帆かけ舟のような紅紫色の 花。元の距がクルリと巻く。黄色いキツリフネ は巻かない。(棚田周辺) (ハムケ鼻周辺)</p>	 <p><b>ウワミズザクラ</b> 花期・5~7月。白い小さな花が穂状につく。 新潟では花穂を塩漬けにしてアンニンゴとし て食べる。(ハムケ鼻)</p>	 <p><b>キクザキイチゲ</b> 花期・3~5月。花が菊に似て、一輪づける。 別名「菊咲一輪草」。白、淡紅色など。群落を 作る。(中浦周辺)</p>
 <p><b>ヒメサク</b> 花期・5~7月。別名オトメユリ。細い花茎の 先に淡いピンクの花を横向きに咲かせる。ほ のかに甘い香り。(中浦)</p>	 <p><b>ミズバショウ</b> 花期・雪解け。葉が変形した白い仏炎苞が、 花の穂をやさしく包み込む。水辺に大群落を 作る。(吉ヶ平)</p>	 <p><b>ショウウジョウバカマ</b> 花期・5~7月。白い六弁花が集まって咲く。 中国の想像上の動物「猩々」に見立てた名。 白もある。(机山)</p>	 <p><b>ユキザサ</b> 花期・5~7月。笹葉に、小雪が散ったような 白い花を咲かせる。淡緑色のミドリユキザサ もある。(吉ヶ平周辺)</p>
 <p><b>オオバギボウシ</b> 花期・8~9月。若葉は山菜のウリ。成長し た葉から花茎をのばし、擬宝珠型の花をつけ る。(中浦周辺)</p>	 <p><b>イワウチワ</b> 花期・4~5月。団扇に似た丸い葉。縁をフリ ルで飾った花を一輪。花は白色から濃紅色ま で。(ハムケ鼻周辺)</p>	 <p><b>ヤマユリ</b> 花期・6~8月。黄色い筋と紅色の斑点を散 りばめた大輪の花。花の重みで傾く。濃厚 な香り。(中浦周辺)</p>	 <p><b>タマシバ</b> 花期・4~5月。コブシに似て、別名ニオイ コブシ。秋に赤橙色の虫こぶのような実が つく。(ハムケ鼻周辺)</p>

# し た だ は 水 の 郷 で す

## じょう こし 城ノ腰の清水 (吉ヶ平)

『吉ヶ平自然体感の郷・城ノ腰の清水』 三条市吉ヶ平 160  
守門水系の源流域の吉ヶ平には、自然湧水が点在していますが、この「城ノ腰の清水」の水源は、守門岳登山道ドンデ平の山峠にあり、無数の湧水や沢が流れ込む湿地になっています。この水が厳しい豪雪の暮らしを支え、また、険しい峠を越えてきた多くの人の疲れを癒してきました。この水の味は、昔を知る人たちにとって、忘れがたき吉ヶ平の水なのです。



## ま ぎ 真木の清水 (長野)

『嵐渓荘・真木の清水』 三条市長野 1450  
嵐渓荘は、昭和2年から守門川の深い峡谷で湯治場を営み、「真木の湯小屋」と呼ばれて親しまれてきました。源泉は、塩分とヨード分を含有する効能豊かな「強食塩冷鉱泉」です。この宿の裏手にある机山（標高222m）の麓から溢れ出す湧水が、名水「真木の清水」です。机山を天然のろ過装置として湧出した水は、一年を通して水温も水量も変わらないため、嵐渓荘ではこの湧水をおもてなししています。



三条市で大河信濃川に合する五十嵐川の再源流部に位置する「しただ郷」は、山深く自然豊かな水の郷です。

靈峰守門岳、粟ヶ岳に連なる広大な川内山塊に降った豪雪が、無数の沢や川を刻み、また伏流水となって各地に湧き出しています。かつては、村内に50数か所の湧水があったと言われており、その豊富な水は森を育て、田や畑を潤し、人々の暮らしを支えてきました。

今も、「しただ郷」をそぞろ歩くと、どこかしらから心地よい水音が響き、湿潤で清澄な空気が満ち溢れていますことに気がつきます。おいしい水は、お米や農作物、そして人情の隠し味でもあります。「しただ郷」にお越しになつたら、ぜひ一杯の水を味わってみてください。

### 問合せ先

#### 三条市 経済部 営業戦略室

〒955-8686 三条市旭町 2-3-1  
TEL 0256-34-5511 FAX 0256-36-5111  
e-mail eigyo@city.sanjo.niigata.jp

## や ぎ が はな 八木ヶ鼻湧水 (八木前)

『八木神社・八木ヶ鼻湧水』 三条市北五百川 37

1300 年前の大昔、八木ヶ鼻の山頂に小さな社が建立され、これが八木神社の発祥とされています。かつて、岩壁の直下にあった「玉清水」は靈気漂い通る人々の安らぎの場となっていました。現在参道の手水舍に引かれている「八木ヶ鼻湧水」は、奇勝八木ヶ鼻の西斜面から搾り出された天然湧水で、神前に進む前の清めの水となっています。四季折々に神恵む清き水として、鎮守の社に彩りを添えています。



## おお く ほ 大久保の清水 (北五百川)

『北五百川の棚田・大久保の清水』 三条市北五百川地内  
かつて北五百川の棚田は、急斜面に拓かれた小さな田が不揃いに何十段にも連なっていました。その棚田を整備し、現在の美しい棚田の形となり、数名の農家によって維持されています。この棚田に流れ込む湧水は、旧土地名から「大久保の清水」と呼ばれ、棚田を潤し、良質な米を育むだけでなく、生活用水としても利用されています。



## こ がね 黄金清水 (中浦)

『旧村松街道・黄金清水』 三条市中浦地内  
旧村松街道は、現在の五泉市から加茂市七谷を経て、旧下田村の中浦と鹿熊を経て、見附市に通じていました。この道は村松藩主、堀丹波守にちなんで「丹波街道」とも呼ばれ、藩領地の巡視や参勤交代にも利用されていました。道中の中浦地区にある重倉山(標高294m)麓に湧き出た水は、旅人にとって値千金の涼味であったことから「黄金清水」と呼ばれるようになりました。また、殿様のお休み場になっていたことから、「殿様清水」や「御用清水」とも呼ばれていました。

